

天橋立の林内景観における松と広葉樹に対する 地元住民の認識(中間報告)

京都大学

奥瀬紘輝・深町加津枝

天橋立北側(健全な松の純林)

- * 阿蘇海側に広葉樹が密集する箇所が何か所もあり、これらを徐々に伐採する必要
- * 以前よりも明るくなったとこれまでの施業を前向きに評価
- * 宮津湾側の松も密度が高いところもあり、間引くことが必要



橋立神社周辺（松と広葉樹が混交）

- * 神社周辺とはいえ、広葉樹の多さが好ましくない場合もある
- * 大正天皇御手植え松付近の広葉樹を伐採するなど、ランドマークとなる場所では、さらなる改善が必要
- * 「橋立小女郎の小径」周辺は、狐がでてきそうな雰囲気大切



小天橋北側～大天橋南端(松の純林)

- * 比較的砂地に松が生える場所であるので、好ましい景観
- * 広葉樹が残っている場所は気になる
- * 部分的には松も間引いたほうがよい



小天橋南側(松の純林に近い)

- * 橋立神社周辺にも同様の景観があるが、建造物が管理されなくなった関係で、広葉樹が周りに繁茂しているところは好ましくない
- * 実生松の密度がかなり高い場所には手入れが必要



そのほかの意見

- 阿蘇海側の広葉樹の本数を減らしたい
- 弱っている松の間引きが必要
- ヤマザクラ、ハゼノキなどの広葉樹はそれぞれの季節で色づくので部分的には残したい
- ヒノキ、スギは場所にあっているので残す
- 天橋立で数が少ない樹木(ヤマナシやオオシマザクラなど)は残す

2014年の広葉樹伐採箇所についての評価

- 実際に広葉樹を伐採した場所については、「見通しが良くなった」「明るくなった」。
- 下草が少なくなったことも景観が良くなった要因の一つに挙げられる。



2014年12月8日の写真

2018年8月8日の写真

- 芯止めをした広葉樹がある景観については「良くなった」という意見もあった。



- 直接的な施業が行われていない場所では、変化は見られない。



2014年12月8日の写真

2018年8月8日の写真

-
- 伐採していない広葉樹がさらに生長して樹冠が広がってしまっている箇所がある。



2014年12月8日の写真



2018年8月8日の写真